



JTSU-E
八地申
第8号
5月18日
申し入れ

「生命」を守ることを最優先とし、 「新たなジョブローテーションの実施」の 運用の中止を求める申し入れ

4月に実施された「新たなジョブローテーション」による異動では、在籍10年を越えていない社員への異動だけでなく、本人希望も尊重されず、異動の目的も明確にされないままの人事運用が散見されています。人事運用のみが目的化された施策では、社員の働きがいの喪失につながり、**会社が示す「人口減少等による厳しい経営環境の中でも持続的な成長を実現していく」「社員が多様な経験を積むことで安全・サービスレベルを向上させていく」「社員がもつ様々な能力を余すことなく発揮でき、かつ、主体性を持って業務に挑戦できる環境を整えていく」という施策そのものの目的から逸脱**しています。

JR東日本輸送サービス労働組合(JTSU-E)が4月8日に行なった「申5号『新たなジョブローテーションの実施』の運用開始に向けた申し入れ」に対する団体交渉において、**会社幹部は「コロナウイルス感染拡大の防止・克服していくために全力を期することに変わりはない」と述べつつも「会社経営として必要なことはやらなければならない」「社員の成長を促すためにも必要であり、のべつ幕なしに異動を行うものではない」「必要な要員を確保した中で取り組む」と回答**しました。これら会社幹部の主張は、企業経営のみを重視し、自らが感染しないことや感染源にならないために、日々不安を抱えながら感染防止対策を講じている**JR本体・JRグループ会社社員の「生命」と「健康」を軽んじており、到底認められるものではありません**。八王子支社は、お客さま・社員の生命を守ることを最優先とし、安全な鉄道を創り出すために、**本来の目的から逸脱したジョブローテーションの運用を中止するべき**です。
したがって、下記の通り申し入れますので、会社の真摯な回答を要請します。

申し入れ項目

1. 施策の目的から逸脱した新たなジョブローテーションの異動を中止し、社員の「生命」と「健康」を最優先とした運用・対策を講じること。

安心して働ける職場環境を創り出すため、交渉に臨みます！



申 8 号 「生命」を守ることを最優先とし、「新たなジョブローテーションの実施」の運用の中止を求める申し入れ 6月5日交渉報告①

1. 施策の目的から逸脱した新たなジョブローテーションの異動を中止し、社員の「生命」と「健康」を最優先とした運用・対策を講じること。

【会社回答】今後、厳しい経営環境の変化に対応するためには、これまでの硬直的なライフサイクルをより柔軟なものとする必要がある。社員が多様な経験を積むことにより安全・サービスレベルを向上させるために、新たなジョブローテーションを実施しているところである。

新たなジョブローテーション実施後に行なわれた異動に対する会社としての「評価」を明らかにすること。

組合

任用の基準に基づいた異動であり、**新たなジョブローテーションによる異動は無い**。あくまでも「通常の異動」であり、業務に必要な異動である。**会社**

今回の異動は、新たなジョブローテーションによる異動ではないのか？

運転士試験や車掌試験の廃止、職名の統一、中途採用社員の乗務員への道、10年程度での異動。これが新たなジョブローテーションであり、**異動することが新たなジョブローテーションでは無い**。

今回の異動は、新たなジョブローテーションの目指す多様な経験をするを通じた**安全・サービスレベルの向上や本人希望の実現につながるものなのか？**

新たなジョブローテーションの**主旨と外れていない**。色々経験を積んでもらうための異動である。

面談等において**希望していない箇所への異動**を余儀なくされている状況もあるが、そのことに対する会社の認識を示すこと。

事前通知を社員に渡し、それを受け取り、発令日に**異動した場合は、「納得している」と**考えている。

通知を受け取り、発令日に異動している社員からの不満や不安な声が多くある。「本人希望」と「会社の社員に求める将来像」に乖離があってはならない。また、会社が人材育成という方向性を示さずに、ただ異動させたという事象も発生している。この様な状況では、**新たなジョブローテーションの主旨から逸脱しており、運用を中止すべきだ**。

全員の希望を聞いていれば会社が立ち行かなくなる。現場長が社員に向き合って、異動後に何を頑張ってもらいたいのか等について意識付けを行っているという認識である。**異動は我々も含めて、皆不安である**。否定はしないが、それも含めて異動先で頑張ってもらいたい。

対立！

異動先によって、担当線区が減ったり特急乗務が無くなったりと新たなジョブローテーションの目的である**多様な経験をする**ことが**困難**だと考えるが、会社の認識を示すこと。

異動先で、**新たな宿泊箇所があることで、新たな経験を**する。デメリットもあるかもしれないが、多様な経験を積んで欲しい。

その②へ続く

Hachioji MAIL NEWS



JTSU-E 八王子地本
JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS UNION - HACHIOJI

2020.06.05
No. 087



ホームページ Twitter

申
8
号

「生命」を守ることを最優先とし、「新たなジョブローテーションの実施」の運用の中止を求める申し入れ

6月5日交渉報告②

緊急事態宣言が出ている最中に実施された今回の異動について、会社の認識を明らかにすること。

組合

適正な要員配置が必要であり、コロナの対策を講じながら、必要な異動なので実施した。

会社

ライフサイクル深度化制度からの復帰者の線見期間と、見習い運転士の養成期間が重なり、職場では感染拡大防止の観点から対応に非常に苦慮していることから、異動時期の判断基準を示すこと。

通常通りのスケジュールで異動している中で、たまたまコロナと重なってしまった。

コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、3密を避けるための工夫などを職場や訓練などで行なっている中で、異動を行うと、見習い期間が必須となる。そのことで3密を避けられない状況が発生し、リスクが高まることから、中止をするべきだ。

会社としては、現場において色々な対策を行なっている上で実施した必要な異動である。出来ることは全てやっていく。密と言うのはあるかも知れないが、例えば乗務員室は一定程度距離感が保たれている。コロナ禍だからと言って、異動を中止するとはならない。

公募制の新幹線職場への異動が延期されているようであるが、理由を示すこと。

新白河の総合研修センターにおける感染拡大防止対策で、研修を開催出来ないため、延期となった。

今後の運転士や車掌の新規養成計画を明らかにすること。

新規養成において示せるものは現段階では決まっていない。

社員やお客さまの「生命」を守ることは会社として最大限やらなければいけない。対策を取ってはいるものの、これをやれば良いというものでもなく、特効薬がまだ無い中で、各人の努力の結果、鉄道という地域の足を止めることなく済んでいる。

新たなジョブローテーション施策の実施よりも、「生命」を守ることを最優先するべきだ。

公共交通機関として、コロナ禍において組合と認識が合わないかもしれないが、必要な異動を行う。理解して欲しい。

対立!

社員の「生命」よりも「施策の実施」を

重視する会社姿勢は到底認められない!

エッセンシャルワーカーとして「生命」を最優先する

企業体質にする為に、今後もたたかっていきます!